

文語日誌(平成二十六年二月十七日)

### (三) 佛蘭西料理店

他の歐羅巴諸國の人々と同様、瑞典人も佛蘭西の食文化には一目を置く。ストックホルム市内の「コックブラン」、「グルメ」は雰圍氣・味とも一級なり。「エスカルゴ」は餘りに値段高く推奨すべからず。「エリック」の内装、船を改造したれば、料理以前に北歐らしさをば満喫するを得。新フランス料理といはば、海岸通りの「ポールとノベル」を忘るべからず。小さき店なれど人氣、勢ひ共にありて、若者に人氣あり。

### (四) 大衆的レストラン

小生の最も足繁く通へるは、日替り定食(「ダーゲンス」と稱す。)の有る「ワローネン」なり。メニューは既に決まり居れば、ただ列に並ぶに既定のメニュー供せられ、此の間一語も發する要なく外國人には氣樂の店なり。日替りの一品料理に巨大なるじやが芋數切れを附す。別に、北歐産チーズを載せたる半切りの丸きパン、ライトビール又はミルク(大人も實によく飲む)、更にコーヒーも含みて、30クローナの格安なり。生協の直營店なれば、個人主義を繪に描きたる如きのセルフサービス方式なり。瑞典人の日常的風景を眺むるには此の種の店に限る。味は繊細にはあらざれど、量は多く、體格よき瑞典人に相應し。

### (五) 各國料理

伊太利、獨逸、墨西哥、インドネシア料理など一應各國のもの揃へど、どれも今一つ本格的といふにはあらず。他の歐羅巴諸國と異なり、歴史的に植民地を持たざりし事情も多少はあるらむ。一方、中華料理店は數あれど、東京の赤坂、六本木邊りと比ぶれば雲泥の差ありて、たとへば麵はスパゲッティを材料とす。

### (六) 日本料理店

日本料理店の新規開業相次ぎ、今や店舗數は五軒となれり。いづれも瑞典人客を中心に繁盛しつつある様子なるは大いに好ましと覺ゆ。就中八五年秋に開店したるばかりの「將軍」は、覚え易き店の名前、舊市街ガムラスタンの一等地といふ好立地條件、日本人建築家の手になる美しき内装等により、當地の新聞の評判も頗る高し。

### (七) ハンバーガー屋

何處の國にても若者はハンバーガーを好む。瑞典の特色は國營のハンバーガー・チェーン「クロック」のあることなり。筑波萬博八五にも出店したる由なれば、御存知の方もあらむ。瑞典國內にては、ハンバーガー・チェーン間の競争いと激し。果たしてクロックはマクドナルドに對抗し得や、今後の動向を注視せむ。